

東京2020アクセシビリティガイドラインに準拠した総合施設



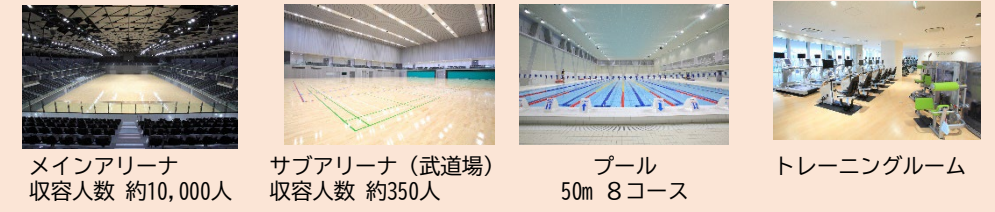
設置 東京都
運営 株式会社東京スタジアム
 ☎ (042) 488-8607

所在地
 ・東京都調布市西町290-11
アクセス
 ・京王線「飛田給」駅徒歩5分

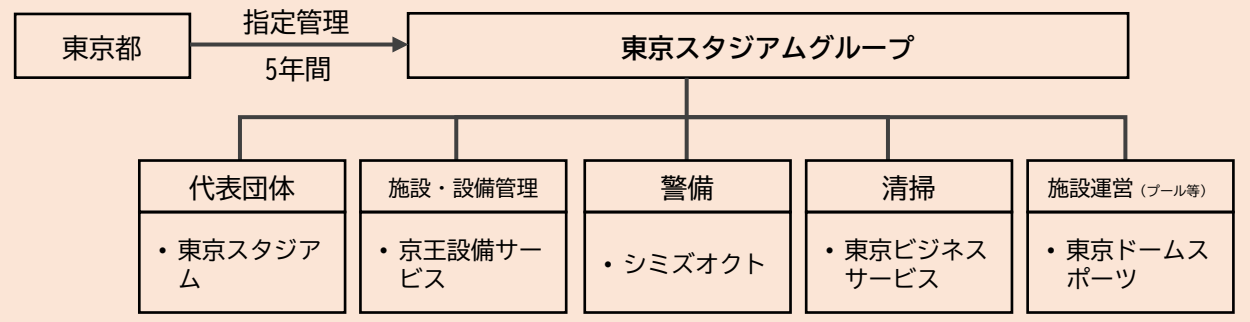
DATA

竣工 ・2017年
規模 ・延床面積 50,936.㎡
総事業費 ・351億円

■主な設備



■体制図



<その他>
 ・多目的スペース
 ・フィットネススタジオ
 ・会議室
 ・カフェ

構想・計画 改修 管理・運営

○東京都多摩地域のスポーツ振興拠点に

- 「みる」「する」の2つの機能を持つ地域活性化に貢献する施設
- ・スポーツ競技大会や各種イベントの招致を通して、隣接する味の素スタジアムとともに多摩地域の活性化、まちづくりに貢献する施設とすることを目的として建設された。
- ・2つのアリーナのほか、ジム、プール、スタジオを有し、国際大会やコンサートなどの「みる」イベントから、地域住民向けの「する」スポーツまで対応した総合的な機能を持った施設とした。



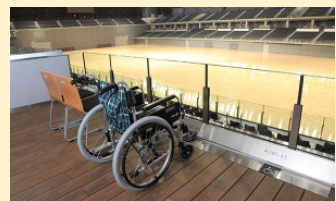
・比較的新しい施設ではあるものの、東京2020大会の会場となることを見据え、改修工事の際、Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドラインに対応する形をとった。

○アクセシビリティガイドラインに準拠した改修の実施

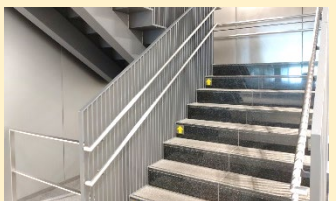
- 「アクセシビリティ・ワークショップ」による意見聴取
- ・東京都では、「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえ、障害の有無に関わらず全ての人々にとって利用しやすい施設となるよう、アクセシビリティの確保に向けて、設計段階で、障害者や学識経験者等から意見を聴取する「アクセシビリティ・ワークショップ」を設置。
- ・そこで出た意見等を踏まえ最終的に下記について改修を実施した。



- <主要な改修項目>
- 車いす利用者用スペースのサイトライン確保 ○同伴者用座席の設置
 - 付加アメニティ座席の設置 ○トイレ改修（機能分散） ○手すり改修
 - 点状ブロック設置 ○エレベーター改修 ○区画された観覧席の設置
 - サイン改修



サイトラインを確保した車いす利用者用観戦スペース



改修後の手すり



点状ブロック設置

○改修した設備面に加え、スタッフ対応も充実

- 利用者の多様なニーズに応えるソフト対応
- ・常に窓口到人を配置し、障害の有無に関わらず、**利用者**と密なコミュニケーションを取るほか、障害者に対しては、**事前に同伴者やご本人に不安事項をヒアリングして、その内容を現場に伝えることで万が一の事態を未然に防止**している。
- ・市民の日常利用が多いジム・プール部門の職員は、全員が**初級パラスポーツ指導員資格**を取得。開館時間は、資格保有スタッフの常駐によって利用者の属性に応じ充実したサポートを実現。
- ・**障害者をサポートするための接遇研修等も実施**し、スタッフの対応力の向上。

○施設周辺のアクセシビリティ

- 施設周辺のアクセシビリティの向上
- ・最寄り駅から施設までの道は、**様々な属性の利用者に対するアクセシビリティに配慮された空間を整備**



幅広い歩道やエレベーターによって、車いす・視覚障害等利用者のアクセシビリティ向上

メインアリーナ等

➤ 東京2020アクセシビリティガイドラインに準拠した改修を行い、大規模大会開催時の利便性向上

【東京2020アクセシビリティガイドラインに準拠した改修内容】

標準的なスペースでは車いす利用者と同伴者が一緒に観戦できない。



必要に応じて着脱可能な同伴者用の椅子を車いす用観客席に設置。

視線の低い車いす利用者は前の人が立つと見づらい



車いす用観客席は前列の観客が立っても視界が妨げられない高さに設置。

発達障害等、人混みが苦手な人は、多くの人に囲まれた席での観戦はパニックを起こす可能性がある。



ほかの観戦者との間が仕切られ、スペースも広いボックス席を設置。

補助犬のスペースがないので観戦に来られない人がいる。



観客席の一部に補助犬の待機スペースを確保できるよう取り外し可能な座席を設置。

利用属性により、様々な理由から標準的なトイレでは利用しづらい場合がある。



ベビーチェア、ベビーシート、オストメイトがある多機能トイレ。カーテンで仕切れ、異性の介助者の場合でも安心して利用。

視覚障害者は自分の座席の位置を判別しづらい。



座席の列と番号表記に点字をつけて自席の位置がわかり易くしている。

受付

➤ 誰でも利用しやすい窓口の実現

車いす利用者など視線の低い人にとって標準的な高さの受付台では利用しづらい。



目線の低い人のために、高さの低い受付台を設置。

聴覚障害者は受付で健常者のように質問をできない。



受付に筆談ボードを設置。

更衣室

障害者にとって、シャワー、トイレが一つの空間にあると良い。



障害者用更衣室はシャワー、トイレ、着替えスペースがひとつの空間にある。

施設全体

➤ 施設内のアクセシビリティの向上

ピクトグラムはあるが、施設が広く経路がわからない。



至る所に案内板を設置。必要に応じて常設サインの追加も検討している。

車いす利用者にとって段差の解消は必須。



設置したスロープに、勾配と距離を明記。

駐車場

車いす利用者や介助者が必要な人にとって、標準的な駐車場ではスペースが狭い。



身体障害者用の優先スペースに加え、「思いやり駐車区画」を移動の負担が少ない入口付近に設置している。

表示・情報発信



「やさしい日本語」による表記のほか、外国人に対する施設ワークショップを開催し、意見を運営に反映。



ホームページは色合いを変えられるなど色盲の人でも見やすい工夫。

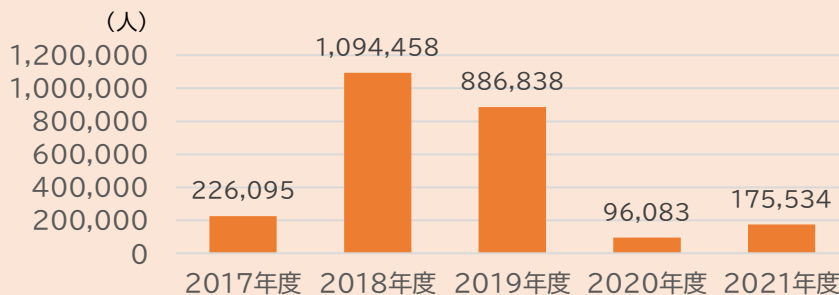
■施設と地域との連携

本施設の管理運営の基本方針として、「TOKYOスポーツレガシービジョン」（2022年1月策定）における「都立スポーツ施設の戦略的活用」の考え方を取り入れ、「施設と地域との連携」等による多様な活用の推進が掲げられている。

武蔵野の森総合スポーツプラザでは、東京2020大会時に行われたバドミントンや車いすバスケットボール等の競技、子どもから大人まで楽しめるスポーツの体験教室を実施。さらに、走り方教室や施設の裏側を見られるアリーナツアーも開催。

利用者現状

利用人数



・2019年～2021年はいずれも新型コロナウイルスの影響による休館期間あり。
・また、2021年は2020東京大会開催による休館期間あり。

効果

・東京2020大会、2019ラグビーワールドカップといった大会でも設備面での問題もなく、多くの利用者を受け入れ、大規模大会の開催による多摩エリアの賑わい創出に貢献。
・シッティングバレー、ブラインドサッカー、車いすバスケットボールなどパラスポーツを楽しめるイベントを実施しており、多くの人々がスポーツに参加できる場の創出。

利用者Voice

・新しい施設なので、すごくきれいで良い。
・多様な設備が揃って使いやすい。
・トイレもたくさんあって混みづらくて良い。

